

愛知県における高齢者排尿ケア実態調査

1999年に、愛知県内の老人施設160施設(対象者1万3466名)、訪問看護ステーション64施設(被在宅看護者2322名)、100床以上の95病院(1万3317名)にアンケート調査を行い、さらに老人施設21施設(対象者1664名)については、6名の泌尿器科医、1名の老年内科医による訪問聞き取り

調査を行いました³⁵⁾。なお、本調査から相当時間が経ってはいますが、昨年、国立長寿医療研究センターが本調査と同様の項目で行った全国調査の結果は、本調査結果とほぼ同様であり、1999年における愛知県の排尿ケアの状況と、14年後の全国の現状は変わっていないといえます。

老人施設・在宅でのおむつ、尿道留置カテーテル、清潔間欠導尿の実施率

老人施設では51.2%、在宅では56%がおむつを使用し、カテーテル留置は、老人施設で1.2%、在宅では9.7%でした(図1)。また、清潔間欠導尿による排尿管理は、いずれにおいてもほとんど施行されていないことが判明しました。また、本調査の2年後に人口約8万人の地方都市で行った同様の調査では、被在宅看護者の98%がおむつを使用していることがわかりました。老人施設や在宅の介護・看護の現場で、いかにおむつ使用やカテーテル留置が多いかがうかがえます。

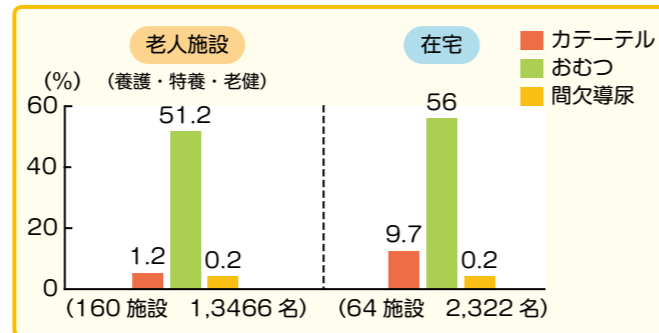


図1 老人施設でのおむつ・カテーテル使用頻度
老人施設入所、被在宅看護高齢者の50%以上がおむつを使用しており、被在宅看護高齢者の約1割がカテーテル留置となっていた
養護：養護老人ホーム、特養：特別養護老人ホーム、老健：介護老人保健施設

カテーテル留置、おむつ使用による排尿ケアの開始時期

一般にカテーテル留置やおむつ使用は、老人施設や在宅看護のなかで始まると思われがちですが、本調査より、実際にはカテーテル留置、おむつ使用の多くは、老人施設入所前、在宅看護開始前に始まっていることが示されました(図2)。おそらくは病院においてカテーテル留置やおむつ使用が始まり、そのまま老人施設や在宅へ引き継がれていることが示唆されました。

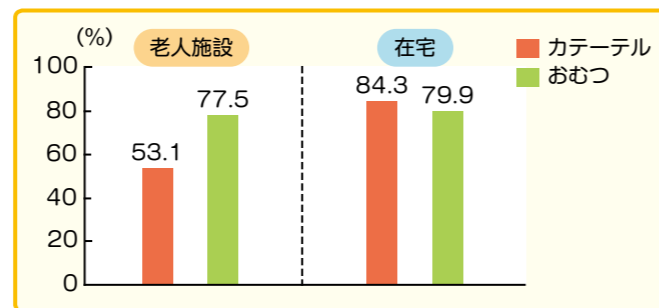


図2 老人施設入所前・被在宅看護開始前からのカテーテル・おむつ使用率
老人施設では、カテーテル留置の53%、おむつ使用の78%が施設入所前から、在宅ではカテーテル留置の84%、おむつ使用の80%が在宅看護を受ける前から始まっていた

施設による排尿ケアのばらつき

老人施設においても、在宅看護(訪問看護ステーション)においても、おむつ使用率は施設によって大きく異なり(図3)、カテーテル留置につい

ても同様の結果でした。このように施設によって排尿ケア内容にばらつきがあることは、排尿ケアに関する標準指針がないことを示しています。

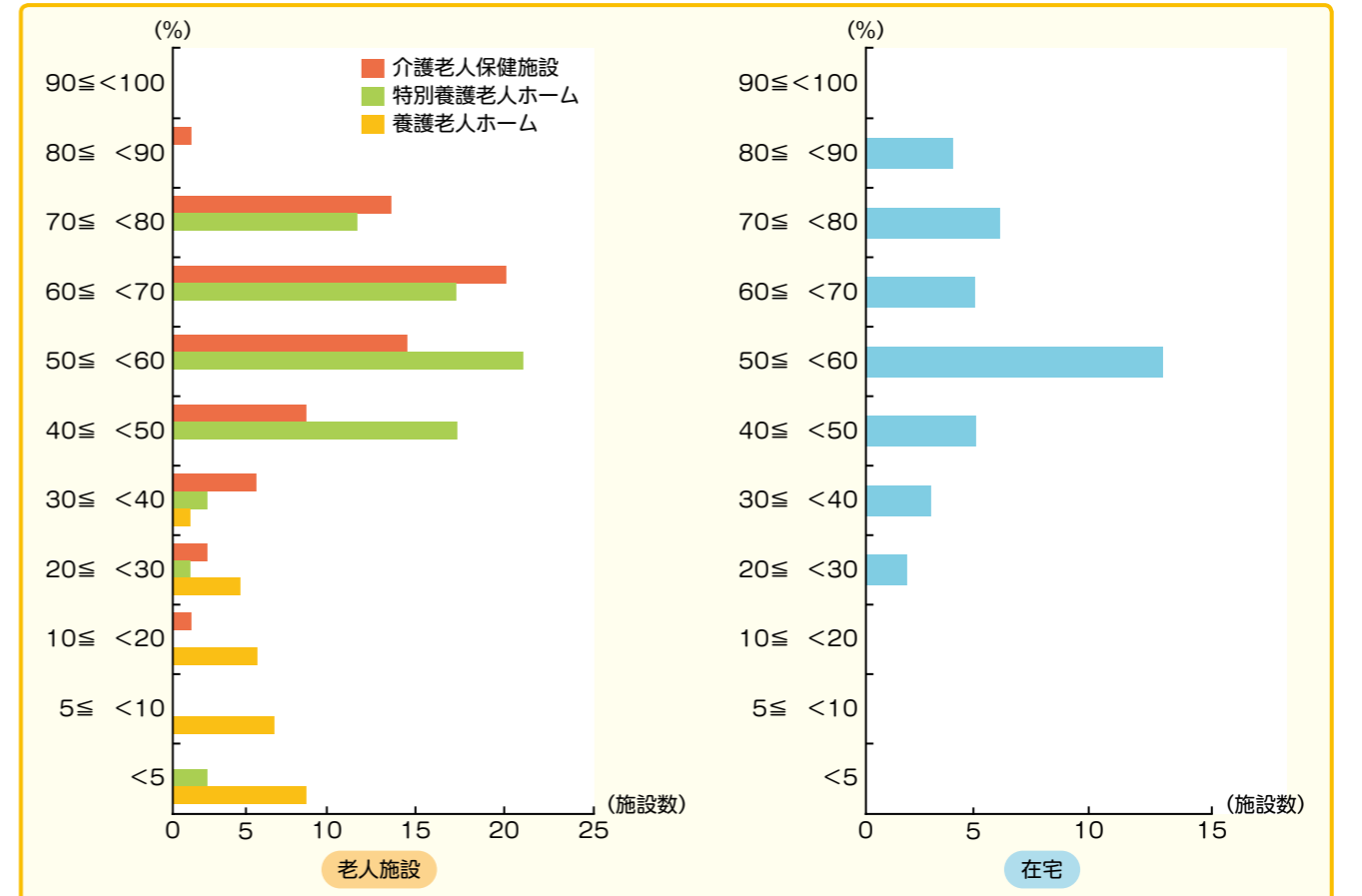


図3 施設によるおむつ使用率のばらつき
老人施設入所あるいは被在宅看護高齢者における、おむつ使用者の割合別の施設数を示す。老人施設、在宅とも、施設によりおむつ使用率に顕著な差がみられた

病院におけるカテーテル留置、おむつ使用、清潔間欠導尿の頻度

前述の排尿ケア方法の多くは病院で始まっているという事実から、病院における排尿ケアの状況はどうかということが気になります。図4は100床以上の急性期病院でのカテーテル留置、おむつ使用、清潔間欠導尿の実施率を示します。病院におけるおむつ使用の頻度は31.5%と非常に高いことが示されています。

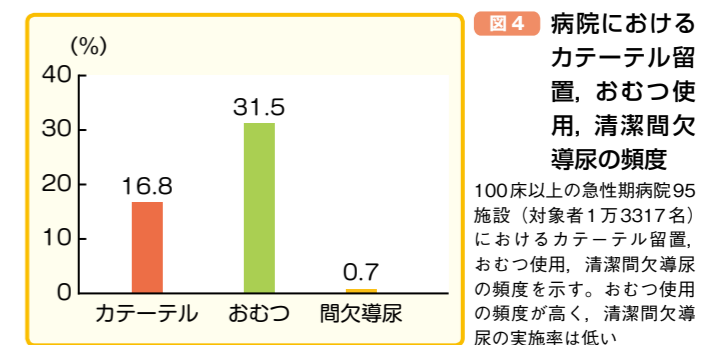


図4 病院におけるカテーテル留置、おむつ使用、清潔間欠導尿の頻度
100床以上の急性期病院95施設(対象者1万3317名)におけるカテーテル留置、おむつ使用、清潔間欠導尿の頻度を示す。おむつ使用の頻度が高く、清潔間欠導尿の実施率は低い